

クラブ大会試合結果一覧

陸上競技部

- 5月 高校総体西三河予選 男子総合 2位  
女子総合 優勝  
高校総体愛知県大会 女子総合 3位
- 6月 東海高等学校総合体育大会(静岡)  
3年 浦口泰陽(鶴城) 八種競技 5位  
3年 富山ダイム(一色) 三段跳  
2年 上村玲大(朝日) 三段跳  
2年 磯貝洋聡(福地) 走幅跳  
3年 酒井菜胡(雁が音) 走幅跳 5位  
3年 山田真央(御幸山) 砲丸投 4位  
2年 木下みなみ(平坂) 砲丸投  
2年 仙石華子(篠目) 三段跳  
2年 火山華(六ツ美) 1500m 3位 3000m  
男子4x100mR  
1年 岡本純太郎(明祥)・3年 戸田源大(東浦北郡)  
2年 富川空翔(安城北)・2年 吉野朱祐(大高)  
女子4x100mR  
3年 青山和奏(古知野)・3年 岡部百海(大府)  
2年 橋本清愛(刈谷東)・3年 酒井菜胡(雁が音)  
女子4x400mR 6位  
3年 酒井菜胡(雁が音)・3年 岡部百海(大府)  
1年 松澤由奈(桜井)・3年 川口莉絆(東山)
- 8月 全国高等学校総合体育大会(北海道)  
3年 酒井菜胡(雁が音) 走幅跳 7位入賞  
3年 山田真央(御幸山) 砲丸投 決勝進出  
2年 火山華(六ツ美) 1500m  
女子4x400mR  
1年 松澤由奈(桜井)・3年 岡部百海(大府)  
2年 松山由奈(六ツ美北)・3年 川口莉絆(東山)
- 第66回東海陸上競技選手権大会  
3年 酒井菜胡(雁が音) 走幅跳  
3年 山田真央(御幸山) 砲丸投  
3年 田中小萩(西尾) 5000m  
3年 太田美晴(六ツ美北) 5000m 4位  
3年 鈴木きょうこ(知立) やり投  
2年 木下みなみ(平坂) 砲丸投  
2年 仙石華子(篠目) 三段跳  
2年 火山華(六ツ美) 1500m 2位  
5000m 1位  
女子4x100mR  
3年 青山和奏(古知野)・3年 岡部百海(大府)  
3年 酒井菜胡(雁が音)・3年 川口莉絆(東山)  
女子4x400mR 5位  
3年 酒井菜胡(雁が音)・1年 松澤由奈(桜井)  
3年 岡部百海(大府)・3年 川口莉絆(東山)
- 9月 新人選西三河予選  
男子総合優秀賞(創部以来初)(トラック優勝、フィールド3位)  
女子総合2位(トラック2位、フィールド2位)  
新人戦県大会 [上位6位入賞者] [上位順]  
2年 杉浦颯志 男子110mH 優勝 男子400mH 優勝  
2年 火山華 女子1500m 優勝  
2年 上村玲大 男子三段跳 2位  
2年 木下みなみ 女子砲丸投 2位  
2年 仙石華子 女子三段跳 3位  
2年 吉野朱祐 男子400m 4位  
2年 磯貝洋聡 男子走高跳 4位  
1年 山口竜世 男子110mH 4位  
2年 木下みなみ 女子円盤投 4位  
1年 尾崎蒼月美 女子ハンマー投 4位  
2年 北岡知也 男子ハンマー投 5位  
2年 筒井優佳 女子400mH 5位  
2年 磯貝洋聡 男子走幅跳 6位  
1年 大畑夢依里 女子1500m 6位  
[リレー種目]  
男子4x100mR 4位  
男子4x400mR 6位  
女子4x100mR 6位  
女子4x400mR 4位
- 10月 特別国民体育大会(鹿児島)  
3年 山田真央(御幸山) 少年女子A 砲丸投 6位  
3年 酒井菜胡(雁が音) 少年女子共通走幅跳  
第17回 U18 陸上競技大会  
2年 木下みなみ(平坂) 女子砲丸投 3位  
2年 杉浦颯志(竜海) 男子300mH B決勝  
2年 吉野朱祐(大高) 男子300m 予選  
新人戦東海大会 [上位6位まで成績順]  
2年 磯貝洋聡 男子走幅跳 優勝  
2年 杉浦颯志 男子400mH 優勝  
2年 木下みなみ 男子砲丸投 2位  
1年 尾崎蒼月美 女子ハンマー投 2位  
女子4x400mR 2位  
2年 筒井優佳・2年 鈴木瑠々  
2年 松山由奈・1年 松澤由奈  
男子4x400mR 2位  
2年 富川空翔・2年 上村玲大  
2年 吉野朱祐・2年 清水幸太郎  
2年 杉浦颯志 男子110mH 3位  
2年 上村玲大 男子三段跳 6位  
2年 筒井優佳 女子400mH 6位  
2年 吉野朱祐 男子400m 8位  
2年 北岡知也 男子ハンマー投 8位  
1年 山口竜世 男子400mH 8位  
2年 仙石華子 女子三段跳 8位
- 11月 第35回全国高等学校駅伝 愛知県予選会 女子3位

男子バスケットボール部

- 4月 高校総体西三河予選 優勝  
5月 高校総体県予選リーグ 3位(東海大会出場)  
6月 東海高等学校総合体育大会 ベスト8  
7月 愛知県私学大会 準優勝  
8月 西三河夏季選手権大会 U18日清食品東海ブロックリーグ2023 5位  
11月 第76回全国高等学校バスケットボール選手権大会 愛知県大会 3位

女子バスケットボール部

- 4月 高校総体西三河予選 優勝  
5月 高校総体県大会 4位  
6月 愛知県私学大会 優勝  
8月 夏季選手権大会 優勝  
11月 第76回全国高等学校バスケットボール選手権大会 愛知県大会 3位 ウィンターカップ出場

野球部

- 7月 第105回全国高等学校野球選手権愛知大会 2回戦

ソフトボール部

- 4月 高校総体西三河予選 2位  
6月 高校総体県大会 3位(ベスト4)  
7月 愛知県選手権大会 準優勝  
8月 全三河選手権大会 1回戦  
中部私学選抜大会 1部1回戦

ハンドボール部

- 4月 高校総体西三河予選 優勝(県大会出場決定)  
5月 高校総体愛知大会 ベスト8  
7月 県高校選手権大会 西三河予選 準優勝(県大会出場決定)  
8月 県高校選手権大会 3位  
8月 西三河地区ハンドボール選手権 3位  
9月 第50回碧海高校生ハンドボール大会 優勝

バドミントン部

- 4月 高校総体全三河予選  
女子団体 3位  
女子シングルス 3位  
女子ダブルス ベスト8  
男子団体 ベスト8  
男子シングルス 3位  
男子ダブルス ベスト16
- 5月 高校総体県大会  
女子団体 ベスト8  
女子シングルス 2回戦  
女子ダブルス 2回戦  
男子シングルス 5位  
男子ダブルス 2回戦
- 8月 西三河選手権  
女子シングルス 準優勝・3位  
女子ダブルス 優勝  
男子シングルス ベスト8  
男子ダブルス ベスト8  
全日本ジュニア愛知県予選 男子シングルス 3位
- 9月 新人戦三河支部予選  
女子 学校対抗戦 3位  
男子 学校対抗戦 ベスト8  
ダブルス女子  
ベスト8 2年 高須愛唯(平坂)・1年 西村咲良(高浜)  
2年 新本海美(上野)・2年 渡部彩華(愛教附)
- ベスト16  
2年 阿知波伽梨(形原)・1年 荏苒叶星(六ツ美北)  
シングルス女子  
ベスト16  
2年 高須愛唯(平坂)・2年 新本海美(上野)・  
1年 西村咲良(高浜)  
ダブルス男子  
ベスト8 2年 久津脩斗(桜田)・2年 向江明徳(依佐美)  
シングルス男子 第3位 2年 久津脩斗(桜田)
- 10月 新人戦愛知県大会  
女子学校対抗戦 ベスト8  
ダブルス女子 ベスト16  
2年 高須愛唯(平坂)・1年 西村咲良(高浜)  
シングルス男子 ベスト8 2年 久津脩斗(桜田)

卓球部

- 4月 高校総体西三河予選  
団体戦:女子 準優勝  
個人ダブルス 6組通過  
シングルス 13名通過
- 5月 高校総体愛知県大会  
団体戦 ベスト16  
個人ダブルス ベスト16  
シングルス 3回戦敗退
- 7月 中部日本卓球選手権大会(富山県)  
女子ジュニアの部 7名 出場  
男子ジュニアの部 7名 出場
- 8月 西三河高等学校卓球リーグ  
女子1部 優勝  
男子7部 優勝
- 10月 高校新入体育大会西三河予選 団体戦:女子 優勝  
11月 第63回東海卓球選手権大会(愛知県)  
女子ダブルスの部 9組  
女子ジュニアの部 15名  
男子ジュニアの部 1名 出場

男子サッカー部

- 4月 高校総体西三河予選 3位(県大会出場)  
5月 高校総体愛知県大会 出場  
8月 第102回全国高校サッカー選手権西三河予選 県決定戦敗退  
9月 私学祭 ベスト16  
10月 高円宮杯U-18サッカーリーグ西三河2部リーグ 優勝(8勝1分)

女子サッカー部

- 5月 高校総体県大会 3位  
7月 Liga Student 東海2023 リーグ2位  
7月 愛知県高等学校女子サッカー大会 4位  
8月 愛知県高校女子サッカー選手権(皇后杯県予選) 4位  
4~12月 愛知県U18女子サッカーリーグ県1部 上位2位以内確定
- 10月 全日本高等学校女子サッカー選手権県大会 3位  
愛知県女子サッカー選手権優秀選手(ベストイレブン表彰)  
3年 岡本伊予(稲豆)・2年 梶川真鈴(碧南中央)  
国体候補選出  
2年 石川真真(前林)

バレーボール部

- 4月 高校総体西三河予選 4位  
5月 高校総体愛知県大会 1回戦  
7月 西三河支部選手権 3位  
7月 愛知県私立高等学校選手権 6位(東海大会出場権獲得)  
8月 愛知県選手権 ベスト8  
8月 第59回下村林西三河総合バレーボール選手権 A・Bブロックとも優勝  
9月 第76回全日本バレーボール選手権大会 西三河支部予選会 優勝

男子硬式テニス部

- 4月 高校総体西三河予選  
団体戦 西三河4位  
個人戦シングルス Gブロック優勝  
個人戦ダブルス Dブロック準優勝
- 5月 高校総体愛知県大会  
団体戦 1回戦  
個人戦シングルス 1回戦
- 8月 西三河予選  
シングルス予選7ブロック優勝・本戦2回戦  
2年菊池優斗(安城南)  
シングルス予選7ブロック準優勝・本戦1回戦  
2年金海慶後(安城北)  
ダブルス7ブロック優勝 2年菊池1年中村ペア
- 9月 新人戦西三河予選  
団体戦ベスト8  
個人戦シングルス Eブロック優勝  
2年菊池優斗(安城南)  
個人戦ダブルス Dブロック準優勝  
2年菊池(安城南)・1年中村(西尾)
- 10月 新人戦愛知県大会  
個人戦シングルス1回戦出場 2年菊池優斗(安城南)

女子硬式テニス部

- 4月 高校総体西三河予選  
団体戦 初戦敗退  
個人戦シングルス ブロックベスト4  
個人戦ダブルス ブロックベスト4
- 8月 西三河予選(個人の部)  
シングルス 予選ブロック優勝3名・準優勝1名  
ダブルス 第7ブロック優勝
- 9月 新人戦西三河予選  
団体戦 西三河2位  
個人戦シングルス ブロック優勝 2年 浅田美晴  
個人戦ダブルス ブロック準優勝 2年 杉浦菜穂  
個人戦シングルス ブロック優勝 1年 宮原凛々  
個人戦ダブルス ブロック準優勝  
2年 浅田美晴・秋山花菜  
新人戦愛知県大会 団体戦 1回戦  
新人戦愛知県大会 個人戦シングルス  
2年 浅田美晴 1回戦
- 11月 西三河予選選手権(団体の部)

アーチェリー部

- 4月 愛知県高校春季アーチェリー大会 団体3位入賞  
5月 高校総体愛知県大会 個人4名出場・団体3位入賞  
6月 高校総体東海大会 3名出場  
3年 松原雅悟(安城南)・加藤七海(安城北)  
山中葉月(朝日)
- 10月 愛知県高等学校秋季アーチェリー大会  
女子団体(新人の部)12位  
1年 山田陽彩(東山)・石原沙幸(刈谷南)・松永ちよ(安祥)
- 11月 新人戦県大会 9位 2年 原天音(鶴城)  
10位 1年 山田陽彩(東山)

ダンス部

- 6月 全国高等学校ダンスドリル選手権大会2023 東海大会出場  
第11回全国高等学校ダンス部選手権 予選出場  
第13回全日本高等学校チームダンス選手権大会中部予選  
大編成部門 第3位  
小編成部門 出場  
第16回日本高校ダンス部選手権 東海・北陸大会  
ビッグクラス 準優勝  
スモールクラス 出場
- 8月 第16回日本高校ダンス部選手権 夏の公式全国大会  
ビッグクラス 出場  
第11回全国高等学校ダンス部選手権 決勝大会 出場  
第15回 NFCC・全国ハイスクール・ダンスコンペティション  
山田健市長管理委員長賞
- 9月 第13回全日本高等学校チームダンス選手権大会全国決勝大会  
大編成部門出場

吹奏楽部

- 7月 吹奏楽コンクール西三河南地区大会 招待演奏  
7月 2023年度中部日本吹奏楽コンクール県大会 金賞  
8月 愛知県吹奏楽コンクール 県大会・代表選考会 金賞  
東海大会出場権獲得  
8月 第78回東海吹奏楽コンクール 金賞  
9月 2023年度愛知県マーチングコンテスト 特別演奏  
10月 第37回東海マーチングコンテスト 金賞  
全国大会出場権獲得  
10月 日本管楽合奏コンテスト全国大会 優秀賞  
11月 全日本マーチングコンテスト 出場予定

弦楽部

- 11月 第12回日本学校合奏コンクール2023 全国大会  
グランドコンテスト出場権獲得

合唱部

- 8月 第63回愛知県合唱コンクール 金賞  
県代表選出(中部大会出場権獲得)  
9月 第76回中部合唱コンクール 銅賞

演劇部

- 7月 中部日本高等学校演劇西三河第2地区大会 出場

書道部

- 8月 岡崎総合書道展 出品  
10月 岐阜女子大学全国書道展 出品  
10月 第70回愛知私学美術展第2会場 出品

美術部

- 7月 第22回全国ポスターコンクール  
入選 3年 加古千尋(大府北)・内山うた(安城北)  
8月 第24回高校生国際美術展(IFAC)  
佳作 3年 近藤鈴夏(大塚)  
9月 第70回愛知私学美術展 西三河支部出品



## 夢、志、そして挑戦

2023年の夏から秋にかけてスポーツ界はバスケットボール、ラグビー、バレーボールのワールドカップ、そして中国杭州アジア大会と世界規模の大会が目白押しとなり大きな盛り上がりを見せました。なかでも沖縄が会場の一つとなった FIBA バスケットボールワールドカップにおいて日本チームが史上初の3勝をあげ、悲願であるパリ五輪出場権を獲得したことは日本中に大きな歓喜を呼び起こしました。日々の厳しいトレーニングで鍛え上げられた身体、卓越した技術と戦術、そして最後まであきらめないプレーは日本中を熱狂させました。そして、コート上で戦う選手たちの心に火をつけ鼓舞し続けたもの、それはスタンドからの大声援でした。沖縄アリーナでの選手と応援席が思いを一つにして一体となった姿はスポーツの持つ力を強く感じさせるものでした。応援する人々は、選手たちが目標の達成に向け日々努力を続けていることを知っているからこそ心からの声援を送るのです。そして、彼らの直向きな姿から元気と勇気を受け取るのです。

バスケットを通して自らの『夢』を追い求め『志』を持って頑張っている安城学園出身の先輩を紹介します。山本楓己(ふうき)さんは小学校からバスケットボールをはじめ、卒業文集には「夢はプロバスケットボール選手になること」と書いています。しかし、彼には「食物依存性運動誘発アナフィラキシー」という持病があります。特定の食べてはいけない食物を食べ運動するとショック死する可能性があり、徹底した食事管理が求められる病気です。中学3年の時には実際に摂取してはいけない食物を取ってしまい練習中に救急搬送されたこともありました。彼は一時夢をあきらめかけますが、安城学園に入学し家族をはじめチームメート、級友、先生達のサポートを受けながら夢を追い続けます。大学でプレーをした後2年間はチーム無所属となり、昨年1年間は練習生として琉球ゴールデンキングスに所属。そして今年、飽くなき挑戦とたゆまぬ努力の末、2023年 B.LEAGUE 信州ブレイブウォリアーズと選手契約を結んだのです。山本さんは、「プロとしてコートに立つことが最終目標ではなく、自分と同じように病気やハンディーキャップを抱えた人たちに夢や希望を与えられる存在になることを志したい。」と語っています。

以前みなさんにソフトバンク創業者である孫正義氏の『夢』と『志』についての次のような話を紹介したことがあります。「『夢』は個人の願いであり『志』は個人の願望を超えて多くの人々の夢を叶えようとする気概です。『志』は厳しい未来への『挑戦』です。」

スポーツに限らずどんなことでも、若者が目標を持ちその達成のために直向きに努力する姿はそれだけで周りを元気にします。その姿勢は「四大精神の実践を通して家庭と社会に温かい心と新しい息吹を与える人を目指す。」という建学の精神に通じるものでもあります。

安城学園は『本気で挑戦、全力で応援する学校』をスローガンとしています。この言葉は数年前の生徒会長が生徒総会の中でどんな学校にしたいかについて語った時に使った言葉です。『生徒一人一人が『夢』と『志』を持ち『挑戦』する学校。それを全力で応援する学校、お互いを認め合うことのできる学校。』安城学園はこれからも今まで以上にそのような学校を目指していきたいと思えます。



安城学園高等学校  
校長 佐藤 順

## Contents

- 2 巻頭言
- 3-5 学園祭
- 6 体育祭
- フレッシュマン  
キャンプ
- 7 探究
- 8 生徒会活動
- 9 国際交流
- 10 商業科  
インターンシップ
- 11 教科セミナー
- 12-15 部活動レポート

# 学園祭 2023 9/22(金)・23(土)



### みんなが成長できた学園祭

学園祭実行委員長 石飛 大悟(新川)

今年度の学園祭は、4年ぶりの通常開催により、多くの学外の方々にご来場いただくことができました。それに加え、生徒会から要望により、学園祭期間中のスマートフォンの使用が認められたことで、例年とはひと味違う盛り上がりとなりました。

学園祭実行委員会では、6月からの約3ヶ月間にわたって、総勢93名で活動してきました。初めての通常開催で、誰も経験者がおらず、分からないことも多々ありましたが、学園祭準備だけでなく、実行委員会合宿や安城七ヶでのボランティアなどの活動を通して絆が深まり、学園祭成功を目指してともに活動することができました。

準備期間を含め、学園祭の取り組みを通して多くの生徒が成長することができたと思います。その成長の場に、実行委員長として携われたことを嬉しく思います。

最後に、3ヶ月間、僕たちの活動を支えてくださった家族や先生方、本当にありがとうございました。全校生徒のみなさんが、1564通りの思い出がつかれることができた、確信しています。

### より良い学校にしていく スタートラインに

前期生徒会長 兼松 朱音(安城西)

今年の学園祭は、4年ぶりに一般公開を行い、保護者の方だけではなく、地域の方、他校生もお招きして大規模に開催することができました。無事に実施できたのは、学園祭に向けて動いてくれた学園祭実行委員会、先生方、生徒の皆さんが、「成功」へ同じ思いを持って行動してきたからだと思います。学園祭当日、参加者も企画者も笑顔で楽しんでいる様子を見て、とてもあたたかい気持ちになりました。

そして、今年は「学祭中のスマホ使用」を容認していただきました。初めての取り組みに向けて、全校で話し合いや放送を重ねて、当日を迎えました。先生方からも生徒からも不安の声もありましたが、正しい使用マナーを考え、学園祭を楽しみ、盛り上げる手段としてスマホを活用する様子を見て、「やってよかった」と心の底から感じる事ができました。色々な取り組みを、学園祭をより盛り上げるための手段のひとつにできたのも、全校生徒のみなさんの行動のおかげです。そんな姿に、感謝と更なる期待を持ちながらも、今年の学園祭が、学校をより良くしていくためのひとつのスタートラインとなれば、嬉しく思います。

学園祭実行委員会 テーマ企画

## For the Future



### ●テーマ企画

- 中元 颯南 (安祥)
- 加藤由紀恵 (安城西)
- 平岩 真琴 (矢作)
- 青木 希夏 (東陵)
- 大熊 来実 (知立)
- 岩田 和奏 (富士松)
- 米津 由蘭 (鶴城)
- 服部 礼奈 (碧南南)
- 牧野 由菜 (鶴城)
- 吉田 朱里 (東陵)
- 上村 美咲 (安城北)
- 新徳優公子 (安城北)

( )内は出身中学校

今年の学園祭テーマ企画は、学園祭テーマ「For the Future」を全校で考えてもらうため、「模擬投票」と「朗読劇」に取り組みました。架空の「衆議院予算委員会」を舞台に、この国の未来にとって必要なのは「少子化対策・教育費増額」か、「防衛費増額」かを問う論戦を展開し、その議論をもとに「緊急世論調査」という形で、全校生徒に模擬投票をしてもらいました。9月の始業式で、予告映像を見てもらったうえで、地歴公民科の先生方のご協力を得て、「学園祭コロナ特別授業」を展開していただきました。今、問題になっていることや、その背景にあるものを解説していただいたうえで、全校生徒に投票をしてもらいました。90%を超える投票率で、全校生徒の関心も高く、自分たちが望む未来はどんなものなのかを、それぞれが考えるきっかけとなりました。

朗読劇「ウクライナの夕陽」は、ウクライナ侵攻から1年半が経過するなかで、現地の人々や、日本にいるウクライナの人々が、どのような思いを持ち、未来をどのように捉えているのかを、劇立立てで表現したものです。本校では、安城市に避難されているウクライナ人ご夫妻（ルスランさん・リディアさん）らと出会い、ウクライナを象徴する花“ひまわり”にちなんで、「福島ひまわり里親プロジェクト」にも関わっていただくなど、つながりの中から学びを深める機会を重ねてきました。そうした学びを、全校生徒一人ひとりが世界に目を向け、平和な未来に向けた思いを共有するきっかけにつなぐことができれば、と考えています。

朗読劇「ウクライナの夕陽」は、ウクライナ侵攻から1年半が経過するなかで、現地の人々や、日本にいるウクライナの人々が、どのような思いを持ち、未来をどのように捉えているのかを、劇立立てで表現したものです。本校では、安城市に避難されているウクライナ人ご夫妻（ルスランさん・リディアさん）らと出会い、ウクライナを象徴する花“ひまわり”にちなんで、「福島ひまわり里親プロジェクト」にも関わっていただくなど、つながりの中から学びを深める機会を重ねてきました。そうした学びを、全校生徒一人ひとりが世界に目を向け、平和な未来に向けた思いを共有するきっかけにつなぐことができれば、と考えています。

【緊急世論調査】  
模擬投票で一票を投じる生徒ら—安城市小泉町の安城学園高校で

**少子化対策 防衛費 どっちに一票**

安城学園高校（安城市小泉町）の生徒が、日本の今後の政策について「少子化対策・教育費増額」「防衛費増額」のどちらかを優先するべきかを問う模擬投票を行った。投票率は96.6%。少子化対策と教育費増額に賛成する生徒が88.2%、防衛費増成に賛成する生徒が11.8%となった。

取組としては、衆議院の予算委員会と同一の主張が対立したと想定。生徒会の学園祭実行委員会のメンバーは、「二つの主張のどちらが正解か」ということではなく、社会の現状に目を向けてほしい。投票が終わった後も、日本がこれからどうなるかを、自分ごととして考えてもらえれば」と話した。（白名正和）

中日新聞西三河版  
2023.9.27

NEWS AG  
緊急世論調査

今、お約束したとき  
内閣総辞職が  
在野結集が  
議決に向う

あなたにどちらを  
選択しますか

少子化対策・教育費増成に賛成  
防衛費増成に賛成



安民党総裁選ポスター



## 他人事から自分事へ — 「For the Future」 未来のために

テーマ企画チーフ 中元 颯南 (安祥)

朗読劇「ウクライナの夕陽」は、NHKで放映された「ウクライナのリアル」がもとになっています。約1年前にロシアによるウクライナ侵攻が始まりました。侵攻当初は連日報道されていましたが、1年経った今、報道も少なくなっており、私自身、ウクライナ侵攻に対する関心も少しずつ薄れていました。しかし、テーマ企画への取り組みを通して、忘れかけていたウクライナの現状を改めて知るなかで、関心を深め、自分事として捉えられるようになりました。普段の生活のなかでは関わることのない、忘れかけていた「ウクライナの戦争」という大きな問題について、私たちがどのような姿勢で向き合っていくべきなのかということを考える機会になりました。

この取り組みともつなぐ形で、架空の政党による「衆議院予算委員会」での論戦を通して、「少子化対策・教育費増成に賛成か、防衛費増成に賛成か」を問う模擬投票を行いました。これらの社会的な課題も、私たちに関係のないことだと思っていた自分がありました。しかし、それぞれの政策の現状や、県や各国の対策を調べていくうちに、今の日本がどのような方針を考えて取り組んでいるのか、世界と日本は何が違うのかなどを深く知り、現状だけでなく、これからの未来を生きていく私たちに深く関係する大きな課題であることに気づきました。全校生徒に参加してもらった模擬投票は、2つの主張のどちらが正解ということではなく、社会の現状に目を向けようことが大切だということを、みんなで考えるきっかけになれば、と考えて取り組んだものです。投票が終わったあとも、日本のこれからについてどうな

るのか、他人事ではなく自分のこととして考えてもらえたらと思います。私たち未来ある若い世代が、暮らしやすい世の中になればいいなと思います。



## 「福島ひまわり里親プロジェクト」が地域にも広がりを見せています



2017年より本校でも取り組みを続けている「福島ひまわり里親プロジェクト」。ひまわりを植え、花を咲かせ、種を収穫し、それを福島に送ることで、震災・原発災害からの復興や風化防止、福島での障がい者雇用促進、防災教育などにつながる取り組みです。本校では、福島の方々との直接的な出会い・つながりの機会を積み重ねる一方、地域のみなさんにも協力を呼びかけ、福島のこと、震災のことをみんなで考えていく装置としています。

今年度は、新たに安城市内の町内会ともコラボレーションしながら、より多くの方々に福島のことを考えていただくこと、榎前町内会の方々栽培に協力していただき、1.1haもの広大な農地に、福島の種を含めて10万本近くのみまわりが咲きました。見頃になった9月中旬には、たくさんの市民の方々を訪れていました。本校生徒が製作した看板も立てられ、多くの方に福島のことを知っていただくきっかけになれば、と思います。

また、行政当局とも協働しており、ひまわりの種の収穫作業は、福島での取り組みと同じように、安城市内の「虹の家」（就労支援B型事業所）や「ぬくもりワークス」（生活介護事業所）で、障がいを持つの方の就労支援事業として取り組んでいただいています。



# 体育祭

## 勝利クラス

### あたたかいクラス

2年10組 岡田 和希(安城南)

僕達のクラスが総合優勝と聞いた時はクラスの全員が驚いていました。当日には選手を全力で応援するクラスメイトの姿や種目を終えた子に「お疲れ!」と声をかけるのを見て、あたたかいクラスだなと思いました。クラスの団結力を球技大会や勉強にも活かしていき、高校を卒業するときに最高のクラスだったなとみんなが思ってくれたらいいなと思いました。



### 体育祭総括



### クラスTシャツに彩られた体育祭

保健体育科教諭 栞山 美鈴

学園祭から1週間後、体育祭当日は、天候にも恵まれ33度まで予想されていた気温も時々現れる雲に助けられ進行していききました。

クラスTシャツに彩られ、トラック種目・レクリエーション種目が交互に行われていきます。仲間の頑張る姿が応援席の近くで見ることができ、身近に感じられるのも城南グラウンド開催の醍醐味かもしれません。これからの高校生活も、全力で楽しむために、体育祭と同じようにルールやマナーを守りながら、やれる工夫を考えて過ごしていきましょう。

# フレッシュマンキャンプ

### FC2023を終えて

1年学年主任 鈴村 一樹

4年ぶりに宿泊を伴う形でFC(フレッシュマンキャンプ)を行うことが出来ました。このFCは1泊2日でクラスメイトと寝食を共にし、高校生活の目標・仲間づくりを目的としています。また先輩である3年生がアシスタントとして各クラスに2名同行し、高校生活での経験を伝えてもらう場面も設定しています。実際に安城学園で活躍してきた先輩方の話に触発され、目を輝かせている1年生の姿が印象的でした。野外炊事、レクリエーション、クラス内での討議など様々な時間を共有することで、仲間づくりのための足がかりになりました。FC終了後の帰路の際には、それまで緊張していた顔も穏やかになり、友人と手を取り合っている光景が大変微笑ましかったです。このFCを通して今後の高校生活に向けて新たな決意を抱いてくれたらと思っています。3年生になった時には、ここでの経験を後輩に伝え、安城学園高校FCの歴史の継承者としても期待しています。



# 総合的な探究の時間

学習指導要領の改訂により、高等学校の「総合的な学習の時間」は、「総合的な探究の時間」に変更されました。

### 2年生総合的な探究

総合的な探究を学んで  
2年7組 大越 泉実(南山)

2年生の総合的な探究は今年から新しく始まった授業です。文理総合コースでは1学期には職業について調べたり、インプットクイズで日本や世界で起きている社会問題について課題を明らかにすることを学びました。また、外部講師として安城市役所のSDGs課の中村さんや株式会社ジオコスの都梅さんに来ていただき安城市のSDGsの取り組みやコミュニケーションの大切さとインタビューのコツを学びました。夏休みには「魅力ある安城のまちづくり」という授業の一貫でDENCITYにインタビューに行きました。そこで、安城市を賑やかにすること、人口を増やすために分譲マンションだけでなく商業施設やオフィス、子育て支援施設、ホテルなど誰もが快適に暮らせる環境づくりを工夫していることを知りました。



2学期は安城市の問題解決に取り組んでいます。私たちの班は安城市の防災をテーマに、災害時に役立つ防災マップを作り防災意識を高めることができるような提案ができたかと考えています。他のグループでもさまざまな問題の解決に取り組んでいるので、安城市をより良くしていくために地域の方々との交流を大切にしたいと思っています。

### 選択「保育」

### 保育の授業について

3年2組 馬場 汐由那(幸田南部)



昨年度から選択保育は愛知学泉大学こどもの生活学科・愛知学泉短期大学幼児教育学科と連携して科目等履修制度を活用した高校での単位の取得がスタートしました。集中講義も含めて年に15回大学・短期大学の先生が授業をしてくださいました。

10月まで9名の先生方に授業をしていただきましたが、中でも渡辺先生の授業が特に印象に残っています。渡辺先生は音楽表現が専門の先生で、授業ではさまざまな音楽の表現について学び、音を感じて絵に表すことをしました。子どもたちの表現はくるくるした線など、色をたくさん使っていました。しかし、私たちは色は使いますが音から想像される物体を絵に描くことが多かったです。子どもと大人の表現や感じ方

が違うことがわかったので、子どもの表現に寄り添うことが大切だと知ることができました。

このように選択保育では幼児教育に必要な多くの知識を学ぶことができます。保育での学びを活かして将来は子どもの個性や表現を尊重しながら、子どもの想像を膨らませて寄り添える保育者になれるよう努力していきたいです。

### 短大附属幼稚園サマーキャンプのボランティア

サマーキャンプに参加して  
3年2組 松原 雅伶(安城南)

7月15日～16日に愛知学泉短期大学附属幼稚園のサマーキャンプにボランティアとして参加しました。当日の朝、続々と登園する園児たちが笑って楽しそうに「お姉さん」と呼んでくれて、行く前に感じていた不安が全部吹き飛びました。豊田市総合野外センターではアスレチック、スイカ割り、水遊び、飯盒炊飯、キーホルダー作りなど園児と一緒に楽しみながら活動しました。1日過ごすなかで沢山の驚きや感動がありましたが、園児たちは私たちが手伝うことがないくらい自ら着替えや支度をして、時間通り行動できていたことがすごかったです。また、先生方は園児たちの積極性を大切にしながら全ての活動を楽しめるように盛り上げていて、私もこのような幼稚園教諭になりたいと思いました。



今回のサマーキャンプを通して、すぐに手伝うのではなく成長できるようにサポートしていくことが大切だと学ぶことができました。普段ではあまり経験できないことなので貴重な体験となりました。

# 生徒会活動報告

## 生徒会東北訪問



### 「つながれる場」をつくるのが大切

前期生徒会副会長 瀬川 花愛 (篠目)

私は初めて東北を訪れました。今まで東北について関わる機会があまりなかったので、このような機会ができてとても嬉しく感じました。盛町灯ろう七夕まつりで、安城学園は今年4年ぶりに運営を手伝っていただきましたが、今までの先輩方が盛町の皆さんとつないだ強い信頼関係がそうさせてくれていると感じました。またひとつ、私たちも先輩方のように盛町の皆さんとつながることができたと思っています。

福島で訪れた中間貯蔵施設は実際に入って見るととても広く、神社や老人ホーム、民家などの建物がボロボロに残されていて、心にくるものがありました。まだ傷跡が多く残る福島ですが、双葉町では町一帯が復興に向けて進んでいました。多くのものを失ってしまったからこそ、また一から作り出せるものがあるのだ、と強く感じ、双葉町がどう成長していくのかとても楽しみです。

この東北訪問を通してつながりの強さ、大切さを感じました。つながることは簡単に思えて、意外と難しく、続けていくことはもっと難しいと思います。でも、これまでの先輩方のおかげで東北を訪問できたし、人が集まりつながることでプロジェクトや町の復興が始まっていくのだと思います。そうした「つながれる場」を私もつくりたいと思ったし、自分の未来についてもう少し考えてみようと思うきっかけになりました。

### 足を運ぶからこそ「伝わる」「感じる」こと

生徒会主任 山盛 洋介

安城学園では、学園ぐるみで「命を学ぶプロジェクト」(旧「東日本から学ぶプロジェクト」)に取り組み、東日本大震災以降、12年以上に渡って、東北各地の方々とつながり続けています。私たちが東北とのつながりを持つきっかけとなったのが、岩手県大船渡市の「盛町灯ろう七夕まつり」でした。12年前、安城市から町ぐるみで七夕まつりの応援に出かけ、本校生徒も多数参加して、現地の方との交流が生まれました。以降、毎年のように大船渡・盛町を訪れ、多くの出会いと学びを積み重ねてきました。今年も、系列校の岡崎城西高校・愛知学泉大学とともに、東北を訪れ、学園の高大連携事業の一環としての取り組みにもなりました。

盛町の七夕まつりへの参加は4年ぶり。コロナ禍で現地の七夕まつり自体が中止になる中、昨年、盛町七夕実行委員会の皆さんを訪ね、「来年夏、一緒に七夕まつりを盛り上げましょう」と交わした約束を果たすことができました。参加した生徒たちは、まつりの運営に関わらせていただきながら、田茂山地区の方々とともに灯ろう山車を引き返し、山車の上にも乗せていただきました。津波で大きな被害を受けた地区ですが、逆境にもくじけずに前を向く人たちの姿に、生徒たちは大きな力をもらったようでした。

後半は福島に向かい、「福島ひまわり里親プロジェクト」を通して出会った方々と再会しながら、福島の「今」を学びました。福島第一原発を至近に望む中で汚染土を保管する中間貯蔵施設も見学させていただきました。生徒たちは原発事故からの復興が抱える課題を目の当たりにしていました。一方で、福島に再び笑顔を取り戻そうと奮闘する人たちの新たな出会いもありました。

現地に足を運んで、リアルな出会いや「ナマ」の学びを重ねながら、多くの人に思いを発信していくことを繰り返していくなかで、生徒たちは、社会をつくり、未来を担うひとりであるという主権者意識を手に入れます。教育活動の中でこうしたきっかけを与えていただいていることに感謝しながら、私たち教員も生徒たちとともに学んでいきたいと思っています。



## 前期生徒会メンバー紹介



2023年度前期生徒会は、「一起」という方針のもと、学園祭の運営や日常の常任委員会活動、安城七夕まつりへの参加、インターハイ応援をはじめ部活動のサポート、福島ひまわり里親プロジェクトへの参加、愛知私学奨学資金財団「一億円募金」の取り組み、学園祭での平和企画運営など、さまざまなことに取り組んできました。学校内外のことに目を向け、全校生徒がさまざまな形で立ち上がり、行動している学校をめざして、これからも生徒会活動を活性化させていきたいと考えています。

会長	3年	兼松 朱音 (安城西)	会計	2年	木俣 結菜 (幡豆)
副会長	3年	瀬川 花愛 (篠目)	会計	2年	中川 涼花 (安祥)
書記	3年	鈴木 萌々佳 (六ッ美)	渉外	2年	平岩 真琴 (矢作)
書記	3年	渡辺 心美 (新川)	渉外	2年	荒川 愛理 (東浦)



## オンライン留学3年目

3年間続けて感じた確かな成長。  
もっと英語を勉強したい。もっと頑張りたい。

3年1組 長岡 ハイツ(安祥)

1年生のころから3年連続で参加してきたこともあり、最終日には卒業セレモニーを開いて頂きました。3年間を振り返ると、自分の英語力だけではなく、話している内容の質も1年生のころとはまったく違うと実感しています。後輩たちには「どれだけ大変でも、英語を話せるようになりたいなら努力し続けたい」ということを伝えたいです。時間はかかるかもしれませんが、いつか自信をもって話せるようになります。オンライン留学を通して、このことを学びました。3年間ありがとうございました。



## 2年連続で海外留学実現

イギリス ホームステイ留学  
朝から夜まで充実したプログラム内容

2年11組 松田 瞬也(桜井)

イギリスでの2週間のホームステイ経験は、私にとって本当に素晴らしいものでした。海外で生活する中で、日本では絶対に経験できないことをたくさん楽しめました。ゴルフを体験したり、地元のディスコに行ったり、美しい海を楽しんだり、博物館を巡ることもできました。これらのアクティビティを通じて、イギリスの文化や人々とより深くつながることができました。この留学を経験できたことで、自分自身が成長し、新しい視点を得られたように思います。将来の夢や目標に向けて、この経験から学んだことを活かしていきます。



## 安城学園高校の英語教育

英検やTOEICなどの外部試験での実績と自信

英語科主任 国分 渉悟

安城学園に現在、在籍している生徒たちの中には1年次から英検準1級や1級に挑戦し合格していく子もいれば、英検を受けたことがない子もたくさんいます。まったく英語の学習歴(英語力)が違うにもかかわらず、それぞれが伸び伸びと学習していくことができるのは、本校が生徒一人ひとりにあった学習の場を提供することができるようになってきているからだと思います。さらに、英検1級やTOEICで955点に届く生徒がいる学習環境の中で、生徒同士が教え合い、助け合っている教室の授業風景から、生徒たちの英語力が伸びていくのは自明の理のように感じる日々です。



## オンライン英会話4年目

iPadを使ったマンツーマンの英会話レッスン

3年5組 岡田 紗弥(碧南中央)

1年生の頃から授業や自宅でも利用してきました。高校入学時よりも英語を話せるようになってきたと実感しています。オンライン英会話を始める前より、今の方が発音にも気を遣うようになりました。もともと、ある程度リスニングはできたのですが、音読が苦手でした。それが今では自分からスラスラ英語が読めるようになってきているのを感じます。自分のペースで、学校の授業だけでなく家などの好きな場所、好きな時間帯に英語が自由に学べるのも嬉しいです。ずっと目標にしてきた英検2級にも合格できました。

3年間頑張ってきてよかったです。



## ラトビアとグアテマラの留学生受け入れ

留学生を受け入れることの教育的価値

国際交流主任 国分 渉悟

コロナを乗り越え、4年ぶりに留学生を受け入れることができました。留学生を受け入れることは、日本の高校生にとっても大きなメリットがあります。①文化交流と理解、②言語習得、③国際的な視野の拡大、④世界規模の友情ネットワーク構築など、日本の高校では経験できないものに会えます。

世界にはたくさんの美しいものがあります。でも一方で、みんなで力を合わせて解決すべき社会的問題も溢れています。日本人だけで、日本国内の規模で物事を考えるのではなく、世界のひとと世界のことを考えるきっかけが留学生受け入れにはあると私は思っています。

異なる文化との交流を通じて、より包括的で理解のある世界を築く手助けとなり、次世代のリーダーを育てる一翼を担うことができれば嬉しいです。来年もどのような新しい出会いが生まれるか、今からドキドキしています。



# 総合的な探究の時間 Internship Report

## 商業科BIGプロジェクト インターンシップ体験報告

### 商業科教諭 久野 博史

商業科1年生77名を対象に、1学期から「総合的な探究の時間」の授業で社会の仕組みについて学び、働くことへの理解を深める等の準備を進めて、その実践の場として夏休み期間(7月下旬と8月上旬・下旬)を利用して、20事業所でインターンシップ体験学習(2日間～3日間)を行いました。インターンシップ体験学習の目標は、生徒が、「地域社会に触れること、感謝される体験や成功体験を得ること、地域社会に還元すること」を主な目標としています。また、トヨタ生産方式「カイゼン」に代表されるようなマネジメント・サイクル『PDCA』の流れを理解して、それを実践することで、自己評価や自己改善ができる人材を育てること、様々な体験から学ぶことで、将来像を明確にすることを目標としています。

体験期間中は日報でマネジメント・サイクルPDCAの各項目についての記録を取り、振り返り活動や改善活動に取り組みました。さらに、持続可能な社会を実現するために今、自分に何が出来るのかを考えながら課題解決に取り組みました。

インターンシップ体験学習を通して生徒は、「自分で一から考えることによって、仕事をやり終えた時の達成感や満足感を得ることが出来た」「『自分から』を目標に頑張ることで、いつもは出来ないようなことを進んでやる事が出来た」等。働くこと・人と関わること・相手のことを思いやること・チームで協力して一つのことをやり遂げることを通して、多くのことを学び成長することが出来ました。

### 生徒の感想

#### 商業科1年1組 井上 千弥楽 (刈谷南)

私は、インターンシップで自分の視野を広げ、相手のことを考える力を向上させることを目標にしました。ベビーステップ保育園で体験をさせていただき、個性豊かな子ども達とふれあい、普段では出来ない経験や学びが多くありました。

その中で印象に残っていることは、「相手が自分のことを良く見ているということ」と「子ども一人ひとりに接し方を合わせる必要がある」ということです。自分が緊張していればそこにいる子どもは緊張気味になってしまいます。そこで、気楽に話すことで打ち解けることができました。一人の子どもと上手くコミュニケーションがとれても、別の子どもとは悪い方向へ行ってしまったり、寝かせてあげたくても出来なかったことがありました。しかし、先生方を見て子どもに寄り添う方法を学びました。これは今後にも生かせる力です。例えば、勉強を教える時間や、困っている時に手助けをする場合です。目標としていたことを達成できたのは貴重な経験と学びのおかげです。ありがとうございました。

#### 商業科1年2組 金原 久良々 (碧南南)

私がパンのトラ安城店のインターンシップ体験を通して感じたことは、「パンって偉大なな」、「働くって素敵だな」ということです。パンのトラはいつもお客さまで溢れていて、買い物をするトレーにはパンで山積みでした。お客さまが皆さん、笑顔で満足そうに帰っていく姿を見て、接客業で働くって良いなと思いました。また、どのような仕事を体験できるのかを楽しみにして参加しましたが、パンの製造や販売、仕込み作業など。想像以上に様々な体験をさせていただきました。それぞれの仕事には多数の作業工程があるので、仕事は皆で協力しなければ出来ないことを学びました。最初は緊張と不安な気持ちで一杯でしたが、アットホームな雰囲気職場環境でしたので仕事しやすかったです。

今回のインターンシップを終えて、これからはいつでも周囲に気配りをして、人とのつながりを大切にしていきたいと思いました。貴重な体験を本当にありがとうございました。



# 教科セミナー報告 Workshop Report

### 国語 セミナー

8月5日・6日に広島セミナーを実施しました。1日目は宮島、2日目は平和記念式典に参加し平和資料館などを見学しました。

#### 2年3組 神谷 麻生 (額田)

私がこのセミナーに参加しようと思った理由は戦争に興味があったからです。いま私たちが生きているのは、78年前の人たちが、未来の人に命をつなぐために命をかけて戦ってくださったからであって、「その人たちがいなかったら私たちはこの世に生きていなかったかもしれない」。私はそんなことを広島で感じました。

広島を訪れたのは今回が2回目でした。1回目は小学校6年生の時、資料館に行ったのですが小学生の私にはただ単純に「戦争は怖い」という感情しかありませんでした。それでもしっかりと記憶には残っていて、今回もう一度、過去に起きた戦争に向き合って戦争というものをより深く、濃く学びたいと思いました。

「国のために死ぬことは幸せ」という当時の考え方に対して私は、おそらく死ぬまでその気持ちは理解できないと思うけれど、国のために命を捧げてくれたたくさんの人たちに想いを馳せることはしなければならないことだし、感謝しなければいけないことだと感じました。だからこそ「自分の命を決して無駄にしないように大切に生きよう」と強く思うことができました。

式典に参加して、8月6日8時15分に広島で様々な国の人、様々な立場の人、様々な思いを持った人と同じ場所で同じ空気を吸ってみて、2度と同じことを起こさない、その思いだけは誰もが口に、絶対にブレてはいけない共通点だということがよくわかりました。

「どんなに世界が変わっても2度とこんなことは起こさない。」

### 理科 セミナー

1日目は登山・五平餅づくり・プラネタリウム鑑賞・天体観測、2日目は茶臼山高原でハイキングなどを体験しました。

#### 商業科2年1組 荒川 愛理 (東浦)

もともと、一年生のときから気になってはいたのですが、もっと化学!勉強!みたいなイメージが強く、理科が得意なわけではなかったの自分はいかなんかと思って避けていました。でも今年2年生になって内容を見たら自分でも楽しめそうだし、一泊二日で仲のいい友達と行けるならなおさらいいなと思い学校生活の経験として行っていいんじゃないかと思い、行くことを決めました。

鳳来寺山では、30分ほど登山をしました。道と呼べる程のスペースさえ無いような登山道でしたが、無事最後まで登り切り頂上でたくさん写真を撮って天気も良く暑すぎるくらいでした。大入の郷では五平餅体験をしました。胡桃のタレが絶品で美味しかったです。一本では足りませんでした。みんなそれぞれ川の前や畳の部屋の前で食べたりしていました。自然の中で食べる五平餅は格が違いました。スターフォレスト御園に到着後、BBQに移りました。お肉をたくさん焼いてタレとキムチと一緒に食べました。この日の疲れがぶっ飛びました。最高でした。締め焼きそばは具材少なめで麺ガツツリたべれて幸せでした。夕食後、天気あまり良くなって星の観察はできませんでしたが、プラネタリウムでめっちゃ星を見ることが出来ました。プラネタリウムはいつ行ったきりか分かりません。とても感動しました。日常使っている電気を少し工夫して、人工衛星に映らないようにするだけで、東京でもあんなに星が見れるようになるというお話はとても衝撃を受けました。将来は星の見える綺麗な国に住みたいです。感動しました。古代の人は星や天気で時間を読み取ったりして、星座を誕生させたのかなと考えました。純粋に今、季節とか時間とか曜日とかあるのって当たり前じゃないすごいなって思いました。プラネタリウムの後、お風呂に入ってコテージで5人とたくさん話してから寝ました。寝たく無いぐらい楽しかったし、充実していました!!行ってよかったです!

2日目は朝食後、スターフォレスト御園にお別れをして芝桜祭り開催中の茶臼山高原に行きました。食べ物の出店が多くてどれを食べるかめっちゃ迷いました。リフトは天気も良く涼しくて快適でした。8月から10月はリフトの下の足元も満開になるらしいのでまた行きたいと思いました。



#### 2年11組 田中 結 (安城西)

式典に参加して、いつもならテレビを介して見ていた光景を生で見る事ができました。正直、最初は現実感が沸かなかった私ですが、子ども代表のスピーチに心を動かされました。難しい言葉を使わずに素直な気持ちがそのままに入ってきて真すぐに受け取ることができました。また、私より年下なのに自分たちがやるべきことははっきり分かっていて、それを言語化できていることが素晴らしいと思いました。そして私も伝える重要性を改めて感じる事ができました。

本川小学校や平和記念資料館では、思っていた以上の衝撃を受けました。亡くなった人、生き残った人、一人一人に当たり前に物語があって、特に平和記念資料館に展示してある遺品のそばにある遺族の言葉などを読んでいて、自分の子どもが、親が、いきなり原爆で死んでしまったらどれだけ辛いだろうと考えるととても辛くなりました。

今回の広島セミナーを通して感じたことは、今自分が生きていることは当たり前ではないということです。そして当時の悲惨さの上に、今の幸せがあるのだということをはっきりと感じながら生きていこうと感じました。



#### 3年2組 杉本 梨愛 (矢作)

私が理科セミナーに参加した理由は車やマンションの光があまりないところで夜空に浮かぶ星を生で見たことがなくて山で見てみたいという興味があったからです。もう一つの理由は友達と1泊2日で泊まることが出来るのに色々な新しい体験ができるからです。

私は愛知で2番目に大きい反射望遠鏡で月を見ることができたのが一番心に残りました。クレーターが目で見るとしっかりとわかるほどの近さで月を見たことがなかったので新鮮な気持ちになりました。山登りは落ち葉が滑りやすくて下に落ちないか心配だったけど、しっかりと登り切ることができたので達成感を感じました。山から見た景色は、とても綺麗で途中でリタイアせずに登り切れてよかったなと思いました。あと私は五平餅があまり好きではなかったけど、今回の理科セミナーで五平餅を食べたとき、思ったよりもおいしくて、今までずっと食わず嫌いでいたのがもったいないなと思いました。1日目は全体的に初めて体験することが多い1日でした。

私は2年ぶりに茶臼山高原に行きました。2年前に行ったときは夏休みだったので、今回は5月下旬の茶臼山高原の自然や景色を感じることができて楽しかったです。リフトに乗ったときは風の通りがよく少し肌寒かったけど、全体的に暑すぎず寒すぎない良い気温のときに行くことができたのでよかったです。

私が思っていた理科セミナーのイメージと全然違って、今もし2年生だったら来年も参加するぞ!と思えるくらいとても充実していて楽しい2日間を過ごすことができました。色々な体験をすることができ、自然の大切さも感じる事ができたので本当にいい経験ができたなと感じました。



# 部活動Report

2023年4月～2023年11月

## 陸上競技部

### 3年間の集大成

#### 3年7組 酒井 菜胡(雁が音)

3年生で初めての全国大会に出場することが出来ました。インターハイは緊張もある中、ワクワクするという気持ちの方が大きかったです。予選では自己ベストに近い記録を跳ぶことができ、何とか予選を通過することが出来ました。決勝では向かい風の影響で中々思うような記録を跳ぶことは出来なかったのですが、今までコツコツと真剣に努力してきた自分を信じて跳躍に臨み、7位入賞することが出来ました。どんなことにも自信を持ち強気で挑むことの大切さを実感出来るいい経験になりました。



▲右：酒井

### 努力の先にあったもの

#### 2年4組 吉野 朱祐(大高)

僕は陸上を中学校から始めて5年。ついに全国大会への出場権を獲得することができました。僕が陸上を始めて最初の試合では100m18秒台と男女合わせて部内で一番遅いタイムを出しました。その時は陸上の才能なんて僕にはないと思いました。そこから3年生になり県大会には出れるようになったものの、全国大会出場にはまだまだほど遠い実力でした。そこから高校ではもっと強くなりたいと思った時、今の顧問の先生と出会い安城学園に入学しました。高校に入ってから種目を変えたり、トレーニングについて自分でもしっかり考えるようになったり、競技者として成長し、ついに全国大会の出場権を手に入れることができました。全国大会では決勝進出そして表彰台に上られるように頑張ります。



▲中央：吉野

園に入学しました。高校に入ってから種目を変えたり、トレーニングについて自分でもしっかり考えるようになったり、競技者として成長し、ついに全国大会の出場権を手に入れることができました。全国大会では決勝進出そして表彰台に上られるように頑張ります。

### 夢の舞台に近づくために

#### 1年9組 松澤 由奈(桜井)

私は、入部して以来自己ベスト更新に向けて日々全力でトレーニングに取り組んできました。そして、1年生大会女子300mでは、優勝することができました。中学の時よりもレベルの高い人が集まってきている中での優勝はとても嬉しかったです。優勝することができたのも、日々全力で取り組んだということ以上に日々指導して下さる先生方、一緒に頑張ってきた仲間、応援して下さるすべての方々がいてこそだと思います。これからは、1年生大会優勝という結果にとらわれず、全国で活躍している先輩たちの跡を追い、全国の舞台でも自己ベストを出せるように、日々仲間と励んでいきます。



▲右から2人目：松澤

## アーチェリー部

### 東海大会出場を目指して

#### 2年9組 原 天音(鶴城)

私たちアーチェリー部は東海大会出場を目指し、日々練習に励んでいます。3年生の先輩が引退し、新体制で行われた秋季アーチェリー大会では新人の部で団体2位、個人で2名が県大会に出場することができました。11月に行われた県大会では自分の目標点を目指し、集中して72射を射つことができました。大会で出た反省点を普段の練習で修正して、次の大会に生かしていきたいと思っています。



## 女子硬式テニス部

### 一緒に高め合おう

#### 2年9組 浅田 美晴(形原)

団体戦・個人戦ともに、県大会出場を目指し日々の練習に取り組んでいます。みんなで高め合い、切磋琢磨して上達できる練習に励んでいます。努力次第で自分に自信が付き最後まで諦めないプレーができるようになります。私たちと一緒にテニスを楽しみましょう。



## 男子硬式テニス部

### 春の新人戦で雪辱を!

#### 2年10組 菊池 優斗(安城南)



昨年の新人戦では県大会に出場し西三河3位入賞とよい結果を残せたので、今年の新人戦では2大会連続で県大会団体戦に出場することを目標にチーム一丸となって練習してきました。結果は3回戦で負けてしまい、県大会出場を逃す悔しい結果となりました。春のインターハイ予選では新人戦の雪辱を果たせるよう、練習に力を入れて取り組んでいきます。

## 女子バスケットボール部



### 7年連続11回目の ウィンターカップ出場

#### 3年7組 西田 美咲(郡山第三)

試合が終わると、喜びと安堵から自然と涙がこぼれました。11月5日に行われたALL AICHIの最終戦、これまでに積み上げてきた全てをコートで表現し、ウィンターカップ出場権を勝ち取ることができました。3年間苦楽を共にしたチームメイト、毎日指導して下さる先生方、離れていても一番に応援してくれる保護者の方々、いつも後輩たちを気にしてくれるOGの先輩方、みんなが心を一つにして最後まで戦い抜けたと思います。試合に足を運んだり声をかけたりしてくれる学校の友達や先生方の応援が本当に力になりました。ありがとうございました。私達は昨年、日清食品トップリーグやウィンターカップで数々の全国トップチームと戦い、とても良い経験をしました。今年もまたこの舞台で私達の全てを発揮して頑張りますので、応援よろしくお願いします。

### 全国への挑戦

#### 3年10組 牧野 もか(桜井)

今年の夏、あと1歩のところで全国大会を逃し、愛知県3位と言う結果で終わり、とても悔しい思いをしました。その悔しさを冬のウィンターカップ予選にぶつけるために、自分たちには何が足りていないのか、チームの課題だけでなく、個々の課題にそれぞれが向き合いました。1試合でも多く、皆とバスケットボールができるよう日々ご指導して下さる先生やコーチ、また応援や支えてくれる家族への感謝を忘れず、最後まで頑張っていきたいです。

## 男子バスケットボール部



## 女子サッカー部

### 今シーズン公式大会全て 4強以上進出!

#### 3年9組 岡本 伊予(幡豆)



自分達が最上級生になり初めての大会だった昨年2月の新人戦。2年ぶりに県3位入賞を果たした時が高校サッカーをしてきた中で一番嬉しかった瞬間でした。キャプテンとして最初はチームを上手くまとめることが出来ませんでした。ついてきてくれる部員のためにと頑張り、インターハイ予選準々決勝では後半アディショナルタイムにゴールを決めました。仲間と最後まで諦めずに戦うことの大切さとチームプレーの良さを改めて実感した試合でした。7月の皇后杯県予選では創部以来初の四強入り。初戦から大学生相手に勝利したものの、課題が多く見つかる大会でもありました。9月に開幕した高校女子サッカー選手権では上位4校による決勝リーグに勝ち進み、第3位となりました。全ての大会で四強入りし、少しか先生に恩返しできたと思います。

### 皇后杯優秀選手賞受賞 (ベストイレブン選出)

#### 2年6組 梶川 真鈴(碧南中央)

7月に行われた愛知県女子サッカー選手権(皇后杯予選)において、私と3年生の岡本伊予さんが優秀選手(大会ベストイレブン)に選出されました。サッカー人生で初めてこのような大きい賞に選ばれたことはとても嬉しかったです。皇后杯ではFWで出場し、自分のストロングであるスピードを活かしたプレーを中心に得点することができました。自分達よりも上の世代である大学生相手に2勝し、創部以来初めて皇后杯4位という結果を残すことができました。この結果に満足せず、さらに上を目指して頑張っていきたいと思っています。個人としては自信を持ってプレーすることが苦手なので、優秀選手に選出されたことに自信を深めてプレーしていきたいと思います。



## 野球部



### 夏に証明する安学野球

#### 野球部監督 増永 和夫

今夏は強豪校ひしめくブロックのなか、安学野球をやりきった。チーム全員で塁を進め得点を重ねた。守備でも投手を中心に最後までリードを守りきった。いい経験を後輩に残してくれた。しかし新チームも苦難のスタートとなった。何が足りなかったのかをチームで考え、冬に力をつけて春夏で巻き返す。このチームは強くなれる可能性を大いに秘めている。高校野球は夏が本番!来夏こそブロックを駆け上がり西三河からアレに手をかけたい。

## ハンドボール部



### 『全力と笑顔』

2年2組 高野 早矢(刈谷東)

私たちハンドボール部は、西三河大会優勝・県大会ベスト3・碧海大会連覇。を目標に日々の練習に励んでいます。私たちの強みは、安城学園という場所を『全力』で『笑顔』で楽しめるところです。一緒にいてくれる仲間のお陰で楽しくハンドボールをすることができ、毎日応援してくれるクラスメイトがいるから元気にグラウンドに練習に行けます。クラスでも担任の先生や教科担当の先生が「頑張ってるね」「頑張っているね」と声をかけてくれます。その応援して下さる方達に恩返しをするために、ハンドボール以外の安城学園の生活も手を抜かず、学習面・クラス活動も全力で挑戦し全力で楽しんでいきたいと思ひます。

## ソフトボール部

### 課題と向き合い、一人一人が役割を果たした結果

3年12組 細田 喜梨(安城南)

私たちは、昨秋の悔しさをバネに、一人一人が課題と向き合い、試合を意識した練習をし、生活面でも意識を変えてきました。プレッシャーがかかる場面でも一人一人が役割を果たし、県総体では3位、県選手権では準優勝という結果を残しました。また、私は愛知県選抜選手に選出され、東海国体に出場することができ、貴重な体験をすることができました。これらの体験を糧として、これからも何事にも頑張っていきます。



## ダンス部



が、メンバー全員が熱い思いを持ち、全力を尽くすことができたので、悔いはありません。たくさんの応援をありがとうございました。今後もダンス部の応援をよろしくお願いいたします。

### ラージチーム

商業科3年2組 太田 華蓮(矢作)

今年の夏、去年悔しい思いをした先輩方の思いも引き継ぎ、全ての全国大会出場に出場するという高い目標を掲げ練習を重ねてきました。今年も、体調不良や大会前の怪我によるメンバー交代など様々な壁にぶつかってきました。しかしその度に、メンバー全員が協力し、助け合いながら乗り越えてきました。初めは振りが難しく出来ないところも多く、諦めてしまう人もいました。しかし、先輩後輩関係なくみんなでアドバイスし合い、誰一人見捨てず全員で踊りました。その結果出場した全ての大会で全国大会に出場することができました。3年生最後の大会でこのような結果を残すことが出来た本当に良かったです。来年は全国大会で入賞という更に大きな目標を持って頑張りたいです。



## 箏曲部

### 4校合同の演奏発表会に出演

2年5組 鳥居 和華(前林)



10月8日(日)、私学連合音楽会(邦楽の部)が中電ホールで開催され、安城学園高校、高蔵高校、菊華高校、藤ノ花女子高校の4校合同での演奏発表会に出演しました。今までにも弾いてきた曲も初めて弾く曲も、部員全員が力を合わせたからこそ学園祭以上に良い演奏ができたと思います。これからも聴いて下さる方や技術指導して下さる野津先生に感謝をし、2月の定期演奏会でも最高の演奏ができるように練習に励みたいと思ひます。

## 学び研究部

### 英語・数学・探究

学び探究部顧問 国分 涉悟



生徒の興味に合わせて、教科学習はもちろん、地域に向いて課題解決に向けて取り組んだり、調査研究を行ったりしています。

地域の方のために「高校生将棋教室」を開催したり、グアテマラに住む女の子に「日本語教室」を開いたり、安城市役所の方と一緒に合同プロジェクトに取り組んだりと活動の幅は非常に広がります。さまざまな活動に積極的に挑戦していくのが私たちの部活動の特徴です。机で勉強するだけではない新しい「学び」のスタイルを追い求めています。

## インターアクトボランティア部

### ボランティアの夏2023

3年13組 上村 啓悟(朝日)

今年の夏の活動報告です。今年は1年生が21人入部し、計34人と部員が多く、昨年度よりも様々な活動に参加することができました。7月末には「わくわくサイエンスデー」で「空気を形にしてみよう」という企画を主催。また、特別養護老人ホーム安寿の里での介護ボランティアは、夏休み計12日間、のべ40人が参加する今年最大のボランティア活動となりました。8月初旬の安城七夕まつりでは、安城ロータリークラブと合同で輪投げや射的などの子どもゲームコーナーを運営し、8月半ばには安城市横山町盆踊り大会のボランティアを行いました。また、一昨年度から継続して行ってきたJR安城駅の構内デコレーションも2年目に突入しました。これからも地域に根差した活動に積極的に参加していきたいと思ひます。



## 合唱部

### 第63回愛知県合唱コンクール 第76回中部合唱コンクール を終えて

3年4組 野村 真央(六ツ美北)

私たちは、9月に行われた中部合唱コンクールで愛知県代表として出場しました。メンバーみんなで歌のイメージを共有すること、曲ごとに表現を変え雰囲気をつくるのが難しく大きな挑戦でした。それでも毎日の練習を重ねるなかで、少しずつ私たちが合唱ができるようになり、音楽と共に成長してきました。本番の舞台では、半年間の練習の成果を発揮した合唱で、聞いてくださる方たちを楽しんでもらうことができました。このように仲間とともに音楽に向き合った経験を活かし、聞く人の心に残る合唱を目指し今後も活動していきます。応援よろしくお願いいたします。



## 弦楽部

### 全国大会出場決定!

3年2組 富田 優杏(篠目)

8月1日に日本学校合奏コンクールの全国大会出場をかけた録音が行われ、11月18日に千葉県で行われるグランドコンテストの全国大会出場が決まりました。一人一人が今まで積み重ねてきたことや、講師の先生方に教わったことを意識した結果が昨年同様の全国大会出場という形で実を結ぶことができました。全国大会では、部員全員で金賞を目指すのはもちろん、今まで指導して下さった講師の先生方、支えて下さった方々への感謝を忘れず、聴いてくれる人の心に残る演奏ができるよう部員一同頑張りますので、これからも応援よろしくお願いいたします。



## 吹奏楽部

### 東海吹奏楽コンクールで金賞

3年7組 松本 雫(安祥)

8月27日に第78回東海吹奏楽コンクールがホクト文化ホールにて行われ、金賞を受賞しました。最後の最後まで詰めて練習し、大変で辛い思いをする日もありましたが、全員の想いは途切れず、東海大会の舞台では自分たちが今までやってきたことを出し切り、最高の音楽を演奏することができました。目指していた全国大会出場には一歩及びびませんでした。この大会を通して全員で同じ目標に向かって最後まで諦めずに頑張る大切さなど様々なことを学ぶことができました。



### 東海マーチングコンテストで金賞

3年10組 荒木 匠人(新川)

10月14日(土)に長野市ビッグハットにて行われた「第37回東海マーチングコンテスト」高等学校以上パレードコンテスト部門において金賞を受賞し、11月19日(日)に大阪城ホールにて行われる「全日本マーチングコンテスト」に推薦して頂きました。新型コロナウイルスによる制限が解除せられ、依頼演奏や合同演奏会など様々なイベントが行われる中、並行して大会の練習を行うため、昨年より練習時間の確保が難しく大変な思いもありましたが、部員全員の努力が実り今年も全国大会に出場することができました。



### 日本管楽合奏コンテストで優秀賞

3年4組 都築 唯(知多)

10月29日に文京シビックホール(東京都)で行われた日本管楽合奏コンテスト全国大会・高校生B部門において優秀賞を受賞しました。最優秀賞には一歩及びびせんでしたが、全員で演奏できる最後の座奏のコンクールということもあり、納得できる演奏になったと思ひます。これからも聴いて下さる皆様へ私達の想いをお届けできる様、日々努力を怠らず練習を重ねていきたいと思ひますので、これからも応援よろしくお願いいたします。

